

## 今号の作業

# リヤフォークに リヤタイヤを取り付ける



今号では、マシンのリヤサスペンションの基部となる『リヤフォーク』を提供する。これまでに提供したファイナルドリブンスプロケットとブレーキパネルを取り付けることができるので、今後の作業効率を高めるためにも仮組みしておこう。

### 今号のパーツ



- ①リヤフォーク×1
- ②メタルナット×1
- ③リアアクスルシャフト×1

#### あると便利な道具

- ・ヤスリ(模型用の目の細かいタイプ / 細い棒状のもの)
- ・耐水サンドペーパー(600番)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。  
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

### 使用する道具

- ・ウェス(柔らかい布)

### 用意するもの

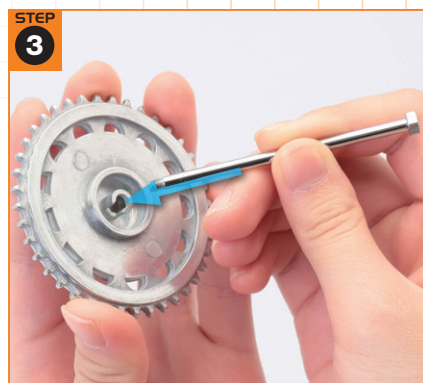
- ・ファイナルドリブンスプロケット(27号で提供し、保管しておいたもの)
- ・リヤホイール(28号で組み立てたもの)
- ・ビニール袋(大きめのものが望ましい)



先号の作業で仮組みしたリヤホイールから、リヤブレーキパネルとリヤブレーキストッパーアームを取り外す。



ファイナルドリブンスプロケットを用意し、ウェスを使って表面に塗布したグリスを軽く拭き取る。触ってもべたつかなければOKだ。



ファイナルドリブンスプロケットの裏面・中央に設けられた穴へ、③リアアクスルシャフトを差し込む。



リアアクスルシャフトが簡単にスプロケットを貫通し、シャフトを軸にして軽く回るのであれば問題はないので、次の工程へ進もう。貫通しない、あるいは回転が重くて洗う場合は右ページ下の別項を参照して対処しよう。



リヤホイールの“左側面(※判別は24号の組み立てガイドを参照)”を上にし、ファイナルドライブスプロケットの裏面・中央の突起を、ホイール中央の窪みにセットする。



ホイール中央の窪み内部には突起が、スプロケット側の突起には切り欠きがあり、両者は噛み合うようになっている。位置を調整してはめ込む。



スプロケットが落ちないように手で押さえたままリヤホイールを裏返し、取り外しておいたリヤブレーキパネルをホイール中央にはめ込む。

× **ダイキャスト製パーツは“穴の内側”をチェックしよう** ×

本シリーズ創刊号でも触れているが、ダイキャスト製パーツの裏面などには『バリ』と呼ばれる余分な部分が残ってしまうことがある。今回の場合、それが“穴の内側”にあったため、穴径を小さくしてしまったのだ。これは不良品ではなく、ダイキャスト製パーツの宿命ともいえる。そのため、常に“バリを除去するためのツール”を用意しておきたい。ほんの数分もあれば処理できる簡単な作業だ。



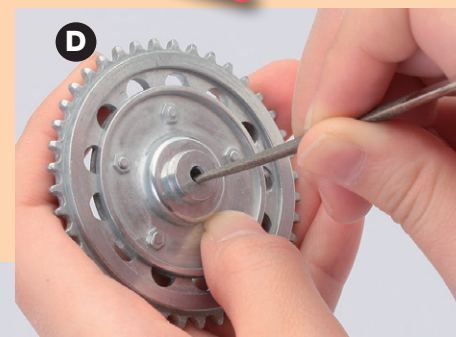
ファイナルドライブスプロケットの裏面・中央の穴の内側に、わずかながら段差が見える。この部分もバリが残りがち。



ファイナルドライブスプロケットの表面。中央の穴の縁が“いびつな円形”になっている。これは穴の縁の内側に、削り落としたバリが付着している状態だ。



バリを落とすには、ヤスリ(※模型用の目の細かいタイプ。今回は細い棒状が使いやすい)と、600番のサンドペーパーが便利だ。



まずヤスリを使い、穴の縁の内側全体を“擦る程度”に軽く削る。



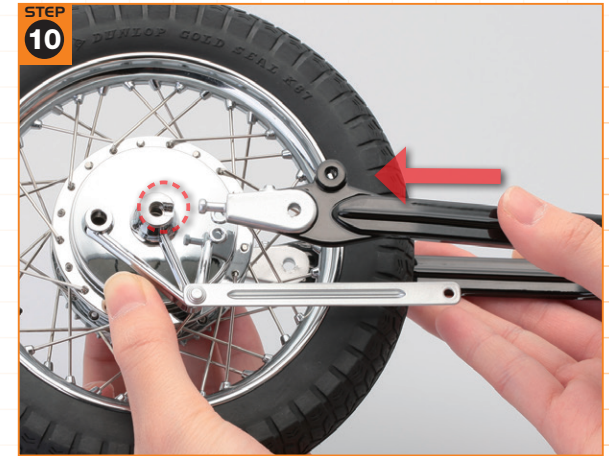
600番の耐水サンドペーパーを細く丸めて穴に差し込み、回しながら内側の表面を研磨すればOKだ。



リヤブレーキパネル中央の突起部を見ると、右側に“切り欠き”が設けられているので、その位置を確認しておく。



①リヤフォークを写真のように置いて、形状を確認しよう。下のアームが右側、上のアームが左側になる。特に右側のアームに注目し、矢印で示した「四角い突起」と「ピン」の位置を覚えておこう。



スプロケットを落とさないよう注意しつつ、リヤホイールを写真のように持ち、右側からリヤフォークを差し入れる。リヤフォークの向きと、ホイール中央・突起部の切り欠きの位置にも注意しよう。



右側のリヤフォークを真上から見た状態。ホイール中央・突起部の切り欠きに、リヤフォークの四角い突起を差し込む。



リヤフォークの四角い突起をしっかりと差し込んだら、③リアアクスルシャフトを写真に示した穴へ差し込む。



リアアクスルシャフトを真っ直ぐに押し込み、リヤフォーク→ブレーキパネル→スプロケットの順番で貫通させる。



慎重にリヤホイールを裏返し、写真で示したリヤフォーク左側の穴をチェックする。スプロケット中心の穴と重なるよう、ホイールを動かして調整する。



ホイールの裏側からアクスルシャフトを押し、先端のネジ部分をリヤフォーク左側の穴から突き出させる。



②メタルナットを用意し、突き出したアクスルシャフト先端のネジ部分にセットする。



メタルナットを指先で右に回してねじ込む。今回は“仮組み”となるので、指で回せる程度に締めておこう。



リヤホイールを再び裏返し、右側を上に向ける。リヤブレーキストッパーアーム先端の穴と、リヤフォークの内側のフロント寄りにあるピンに合わせる。



リヤブレーキストッパーアーム先端の穴部分を押し、リヤフォーク内側のピンを差し込む。この時、リヤブレーキパネルに取り付けたストッパーアームが抜けないよう、しっかりと押さえておく。

## 今号の完成



これで今回の作業は完了だ。仮組みとしているのは、今後の作業でリヤブレーキパネルに取り付けるパーツがあるためだ。しかし、今回の作業手順を覚えておけば、リヤホイールの脱着は容易に行うことができるはずだ。



今回の作業は仮組みのため、保管には万全を期したい。大きめのビニール袋に入れ、次回の作業に備えて大切に保管しておこう。